

むさしの景観だより

景観まちづくり講座

「まちの見方教えます～景観を理解すると見える景色が変わります～」

第10号

令和2年
2月発行

景観まちづくり講座「まちの見方教えます～景観を理解すると見える景色が変わります～」を開催しました。昨年に引き続き堀先生をお迎えし、84名の方にご参加いただきました。

日時 令和2年1月8日(水)
19時～21時

場所 武蔵野商工会館4階
市民会議室ゼロワンホール

講師 堀 繁先生(一般社団法人まちの魅力づくり研究室理事、東京大学名誉教授)



当日の様子

講座の概要

景観とは何か

景観とは人が見るコトであり、人が見えないモノは景観ではない。

見るためには見る場所が必要である。場所がなければ見るできない。

人がどこを見ているのかを知っているだけで、景観は変わる。



景観とは見ることで、見る場所が必要なんだね。

景観に対する評価

景観は単なるモノではないので、モノの質を上げることだけでは景観を良くすることに繋がらない。

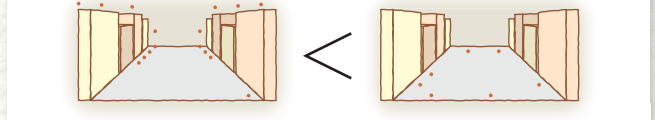
人の見方の特徴

人の見方には次の特徴があり、自分の「近く」を「遠く」よりも過大に評価している。

① **大きさ** 小さいモノよりも大きいモノを評価する



② **位置** 端よりも中央を評価する



③ **高さ** 上よりも下を評価する



プラス・マイナスの評価につながるもの

⊖ マイナス評価

拒む形、雑な形

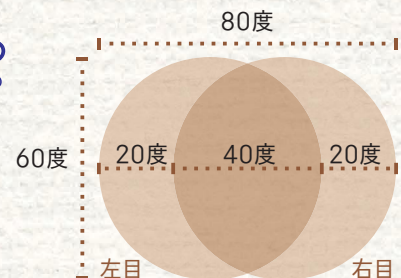
⊕ プラス評価

誘う形、丁寧な形

人の視野角

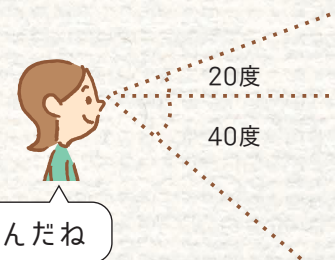
Q 人の水平方向の視野角は何度？

A 80度



Q 人の鉛直方向の視野角は、目の水平を0度とすると何度？

A 上20度、下40度



下の方を見ているんだね

まちの見方

人はまちを**道路6割、沿道4割**で評価している。
→道路の**舗装**や、人を迎える「**ベンチ**」が大切になる。



舗装やベンチによって整備された通り(元町商店街)

お店の作り方

人の視野は下を向いており、2階以上はほとんど見ない。
→お店は1階の作り方が重要になる。



1階の丁寧な設え(三条通り)

お店づくりの三種の神器

メッセージを形にする三種の神器を活用する。

①挨拶の装置

例：花の鉢



②迎客の装置

例：のれん、縁台



③集客の装置

例：メニュー、商品サンプル



通りの比較(評価)

道路の違い



アスファルト(大正通り) インターロッキング(中道通り)



道が丁寧に作られていると、人は通りたいたいと思うよね。

歩車幅員比の違い

∴車道に対する歩道の相対幅員のことを表す。



歩車幅員比が小さい道(昭和通り) 歩車幅員比が大きい道(大正通り)



歩車幅員比が大きい道の方が、車より人を大事にしていると感じるね。

まとめ(武蔵野市の評価)

- ①武蔵野市はポテンシャルが高い道が多いので、道路整備の重要性をもう一度認識して行政を進めていけば見違えるように良くなる。
- ②吉祥寺のお店の設え等は、非常にクオリティが高い。三種の神器を活用することでさらなる発展が期待できる。
- ③武蔵野市は、まだまだ景観が良くなる可能性を秘めたまちである。市民からまちづくりを始めていければ良いと思う。

アンケート結果

参加者の感想

- ①お話を聞いて“視点”ができたことで、またまち歩きが楽しくできそうです。
- ②数多くの事例を交えた説得力のある展開で非常にわかりやすかった。

参加者が今後の景観まちづくりに求めること

- ①武蔵野市のポテンシャルの高さを生かして欲しい。
- ②歩行者にとってホスピタリティに富んだ道路作りをしてほしい。

などのご意見をいただきました。

問い合わせ

〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28 武蔵野市役所 都市整備部 まちづくり推進課
電話:0422-60-1870 ファクス:0422-51-9250
Eメール:SEC-MACHIDUKURI@city.musashino.lg.jp



Facebookページ <https://www.facebook.com/musashinoscape>

